

第18回 光通信工事技能競技会

「引き継ぐ技術と未来の技術 今こそ見せよう新たな時代の現場力!!」

(競技会実行委員長) (一社) 情報通信エンジニアリング協会
(競技PJリーダー) エクシオグループ(株)ネットワーク事業本部
アクセスエンジニアリング本部エンジニアリング企画部門
(光ユーザ施工部門リーダー) 四国通建(株)
NTT事業本部 アクセス部
(光アクセス施工部門リーダー) 大和電設工業(株)
エンジニアリング事業部技術推進部

専務理事 小枝 明広

課長代理 関谷 成真

課長 片山 直樹

課長 佐藤 健太郎

本競技会は、「技術者の底辺拡大」並びに「現場力の向上」を図るとともに、最新の施工技術・工事規格の普及拡大と会社間競争を通じた施工技術レベル向上に加え、施工者にプロ技術者としての「自覚・自信・誇り」を持たせることを目的として毎年開催しています。直近の3回については、コロナの影響による中止2回、および来場者の人数制限による開催でしたが、今回は4年ぶりに人数制限することなく『第18回光通信工事技能競技会 ～引き継ぐ技術と未来の技術 今こそ見せよう新たな時代の現場力!!～』と題して、2023年7月28日 パシフィコ横浜にて開催しました。

開催方法として、事前登録制による現地来場とオンライン配信によるハイブリッド形式で実施し、ご来場(1,049名※運営スタッフ等を含む)とオンライン視聴(視聴数1,699端末、延べ2.6万アクセス)による選手への応援、VE&VA展示、競技外

イベント等のプログラムも含め盛況な競技会となりました。

各チーム競技模様のオンライン配信については、現場でも使用しているネットワークカメラを活用し、見守り担当者の目線で競技を観戦できる動画配信が行われました。

競技については、光ユーザ施工部門(新たなビジネス領域を意識した開通・ネットワーク構築)と光アクセス施工部門(道路整備に伴う架空引込から電線共同溝への地中化)との二部門の競技を実施し、新たなチャレンジとして、今後のビジネス領域拡大を意識し、ローコード・ノーコードアプリのクラウド上での開発工程を導入しました。競技は1チーム2名で、全16チームが取り組み、各社から選出された選手32名が参加し、見ごたえのある熱戦が繰り広げられました。

また、同日のプログラムとして、本競技会では初めての試みとなる

『ビジネスアイデア事例紹介』と題して、新技術のビジネス活用イメージや各社の優良事例を紹介しました。また、直近での事故事例に関する安全関連開発品について、NTT東日本様・NTT西日本様によるデモやプレゼンテーションも実施いたしました。

以下に、第18回 光通信工事技能競技会模様をレポートいたします。

1. 開会式

(1) 船橋会長挨拶 (要旨)

今回の競技会は、大変多くの皆さまにご参加いただいている。選手の皆さまは、名誉と誇りをかけて、堂々と競技に向かっていただきたい(写真1)。暑くて集中力が途切れそうになると思うが、そんなときこそ、ぐっと腹に力を入れて競技に対応していただきたい」と挨拶しました。

表1 ご来賓の皆様 一覧

会社名	組織名 役職	氏名
日本電信電話株式会社	執行役員 技術企画部門長	池田 敬 様
東日本電信電話株式会社	代表取締役 社長	澁谷 直樹 様
	代表取締役 副社長	星野 理彰 様
	取締役 執行役員	島 雄策 様
	常務執行役員	遠藤 玉樹 様
	執行役員 東京事業部長	熊谷 敏昌 様
	執行役員 埼玉事業部長	市川 泰吾 様
	執行役員 ビジネスイノベーション本部副本部長	阿部 隆 様
	執行役員 ビジネスイノベーション本部副本部長	加藤 咲子 様
	執行役員 神奈川事業部長	相原 朋子 様
	執行役員 宮城事業部長	須藤 博史 様
	ネットワーク事業推進本部副本部長	鈴木 康一 様
	ネットワーク事業推進本部エンジニアリング部 部長	松田 秀史 様
	西日本電信電話株式会社	代表取締役 社長
代表取締役常務		桂 一詞 様
執行役員 関西支店長		小川 成子 様
執行役員 設備本部 サービスエンジニアリング部長		東瀬戸 浩司 様
執行役員 九州支店長		右田 聖秀 様
設備本部 相互接続推進部 部長		奥田 慎治 様
エヌ・ティ・ティ・インフラネット株式会社	代表取締役 社長	上原 一郎 様
	取締役 設備本部長	板坂 敏之 様
NTTアノードエナジー株式会社	代表取締役 社長	岸本 照之 様
	代表取締役 副社長	奥野 聡 様



写真1 船橋会長



写真2 澁谷社長

(2) NTT東日本 澁谷社長 来賓挨拶 (要旨)

私は、この大会をいつも楽しみにしている。皆さまとNTTグループのつながりを強化する大切なイベントだと考えている (写真2)。

これからの未来についてお話ししたい。この業界の可能性は非常に広

がっていく。光ファイバをマスメディアに敷く部分は、一段落しつつあるが、一方で医療や教育、行政、さらに農業や林業などの第一次産業においても通信やデジタルを活用して産業自体を変革するという動きが出ている。スマートメンテナンスと呼ばれる防災分野でも通信とデジタルを

組み合わせた構想が進んでいる。こうした領域が広がることで、われわれのチャンスは無限に広がる。

NTT東日本は10月に、1万人規模の総合エンジニアリング会社をつくる。ここでは所外、所内という発想はなく、リモートとオンサイトでスマートメンテナンスを自ら磨き、先導することで、お客さまのニーズに対応する。皆さまもパートナー会社として、ぜひ進化していただきたい。

安全についても触れたい。一昨年、東日本エリアでは30件の重大事故があり、昨年は緊急体制ということで、危機感をもって安全対策に取り組んできた。とくに年初は工事量が

通常の2～3倍に増え、事故も増えやすくなる。そのため当社の幹部が安全朝礼で全国各地を回った。その結果、事故ゼロで繁忙期を乗り切ることができた。われわれは今後も、もっと踏み出して安全を訴えていきたい。皆さまには安全確認を大事にしていただきながら高品質の工事とともに、安全な工事を心掛けていた

だくことをお願いしたい。

(3) 競技説明

競技PJリーダーのエクシオグループ 関谷課長代理より「光ユーザ施工部門」、「光アクセス施工部門」の2部門について競技内容説明を行いました（写真3）。

(4) 選手宣誓

（株）TOSYSの岡田 英剛選手、岡

田 淳選手の2名により力強く選手宣誓を行いました（写真4）。

2. 課題と競技模様

(1) 光ユーザ施工部門

架空配線区間からスポーツジム、本社ビルへの新たなビジネス領域を意識した開通・ネットワーク構築競技とし、実施する主な工程は次のとおり。

- ・競技幹2号柱にAOT-Mクロージャを取り付け、本社ビルへの開通工事を実施
- ・スポーツジムと本社ビル間を拠点間VPN接続、遠隔接客のための機器設置、ネットワークの構築
- ・ひかり電話サービスにおける鳴り



写真3 競技説明（関谷PJリーダー）



写真4 選手宣誓

競技概要

<シナリオ>

- ・遠隔接客管理を実施している本社では、多拠点拡大を想定し、ネットワークを構築
- ・スポーツジムの無人化・遠隔接客管理の要望に伴い、クラウドサービスの導入サポートを実施
- ・スポーツジム前の道路整備に伴い、架空設備から電線共同溝C.C.BOXへの地中化工事を実施
- ・地中化切替用BOXを活用し、屋外のみでの切替を実施

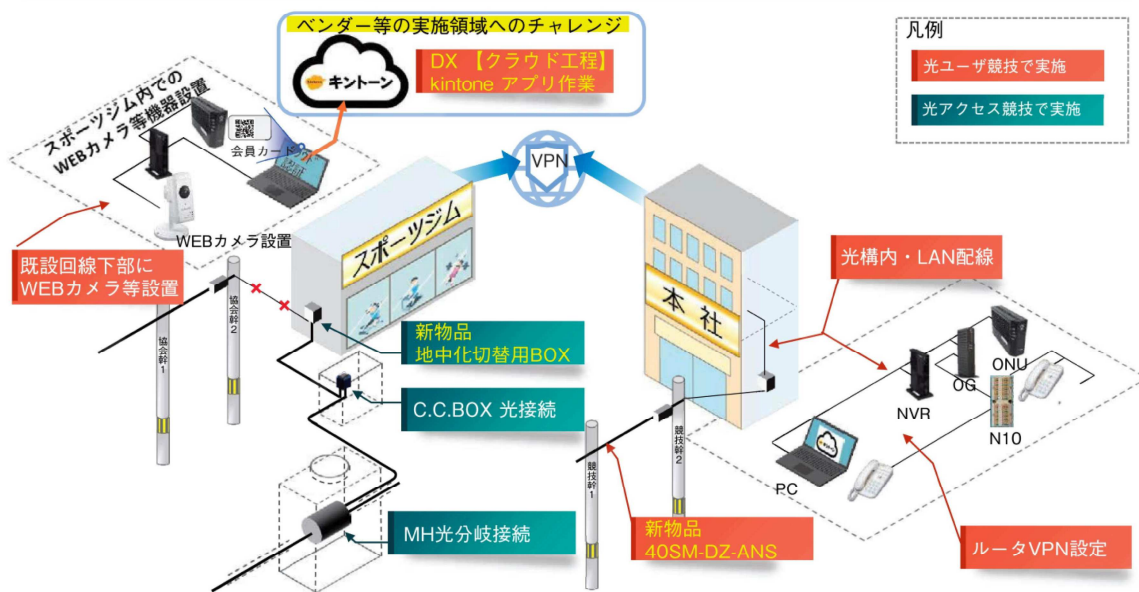


図1 競技概要



写真5 競技模様

分け設定

- ・クラウドサービス (kintone) の導入設定
- ・拠点拡大に向けた構内ネットワーク設備の構築

(2) 光アクセス施工部門

支障移転工事において架空ルート
の地下化に伴い、架空引込で開通
されていたユーザビルを地中化切替
BOXにより、架空引込から地下引
込へ光心線を切り替える競技とし、
実施する主な工程は次のとおり。

- ・渋谷線1MH 接続点にて引き通しケーブルにTNクロージャを新設し、融着にて接続する
- ・渋谷線CCB 接続点にて、UOW-Pクロージャに分岐ケーブルを取り



写真6 VE&VA展示模様

込み、スプリッタを新設しドロップ光ファイバと接続する

- ・ユーザビルにて、地中化切替BOXを壁面に新設する。また、架空ドロップ光ファイバをCCBから新設したドロップ光ファイバに切り替える
- ・協会幹線2号柱～ユーザビル間のドロップ光ファイバを撤去する
- ・収納完了後にE「8」セイトンPF(Aビル試験台)にてパルス試験を実施する

3. VE&VA提案 展示コーナー

ご来場者の皆様に、今後の業務の参考にしていただくために、VE&VA提案の展示コーナーを設け、最新技術をご覧いただきました(写真6)。

4. ビジネスアイデア事例紹介

競技終了後、初めての試みとなる『ビジネスアイデア事例紹介』を実施しました。新技術のビジネス活用イメージや各社の優良事例を紹介しました。

- ・ミライト・ワングループ

株式会社ミラテクドローン

『ラインドローンシステムを活用した建物の壁面点検』(写真7)

- ・シーキューブ株式会社

『既存事業における事務処理稼働削減と効率化』(写真8)

- ・株式会社TOSYS

『自動撮影システムの開発・活用による地域課題解決への貢献』(写真9)



写真7 株式会社ミラテクドローン 佐々木社長



写真8 シーキューブ株式会社 船橋課長 北村社員



写真9 株式会社TOSYS 中谷 新規事業開拓室長

5. 安全施策の紹介

NTTグループと通信建設業界は安全対策を一体となって展開しています。そのような中、昨今、大きな課題になっている工事作業中の人身事故についてNTT東日本とNTT西日本がメーカーなどと連携しながら検討・導入を進めている安全施策を紹介しました。

NTT東日本は、作業中の車両飛び込まれ事故対策の取組みおよび現地KY（危険予知活動）のシステム化施策を紹介しました（写真10）。

NTT西日本はバケット車からの墜落事故および抜柱作業における電柱との挟まれ事故の事例とその対策を紹介しました（写真11）。

6. 表彰・閉会式

(1) 表彰

競技成績は、競技会実行委員長の小枝専務理事から発表が行われ（写真12）、各部門および総合部門の表彰者は表2のようになりました。部門競技では船橋会長から部門ごとに1位から8位に入賞したチームに表彰状が、上位3社に盾が渡されました。

総合部門では、上位3社に盾と表彰状、4位から8位に入賞したチームに表彰状が授与されるとともに、優勝チームの2選手に金メダル、準優勝チームに銀メダル、3位入賞チームに銅メダルがそれぞれ授与されました。

NTT東日本

安全施策の紹介



写真10 NTT東日本 渡辺 安全センター長

NTT西日本

安全施策の紹介



写真11 NTT西日本 大森 安全推進室長

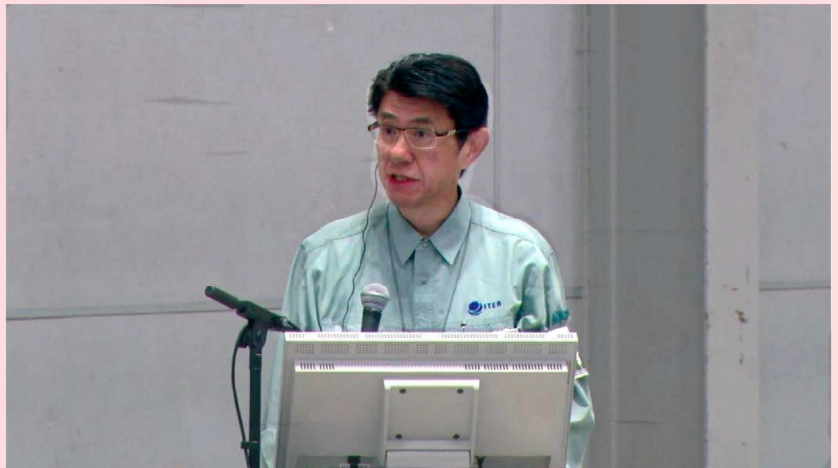


写真12 小枝専務理事

表2 各競技の順位表

総合部門	
順位	会社名
優勝	ミライト・ワン (CWC)
準優勝	ミライト・ワン (CEC)
3位	日本コムシス
4位	つうけん
5位	TTK
6位	エクシオグループ
7位	四国通建
8位	NDS

光ユーザ施工部門	
順位	会社名
優勝	ミライト・ワン (CWC)
準優勝	つうけん
3位	NDS
4位	エクシオグループ
5位	ミライト・ワン (CEC)
6位	四国通建
7位	TTK
8位	日本コムシス

光アクセス施工部門	
順位	会社名
優勝	日本コムシス
準優勝	ミライト・ワン (CEC)
3位	TTK
4位	ミライト・ワン (CWC)
5位	西部電気工業
6位	シーキューブ
7位	つうけん
8位	エクシオグループ



写真13 総合部門



写真14 光ユーザ施工部門



写真15 光アクセス施工部門

●主催：一般社団法人 情報通信エンジニア
後援：日本電信電話株式会社 東日本電信電話株式会社 西日本電信電話株式会社 通



写真16 総合部門優勝 ミライト・ワン (CWC) 西山選手 曾木選手

(2) 中山副会長（技術品質委員長） 閉会挨拶（要旨）

選手たちは、諸先輩から引き継いでいる失ってはいけない技術の継承、そして次の時代につなげていく新しい要素を、この競技会を通じて見事に体現した。この競技会が通信建設業界全体のレベルアップ、未来につながる橋になっていくことを望んでいる。また、今回の競技会ではビジネスアイデア事例紹介と安全施策の紹介も行われた。この競技会を、ますます付加価値の高い、実りのあるものにしていきたい（写真17）。



写真17 中山副会長

おわりに

第18回光通信工事技能競技会は、4年ぶりに人数制限することなくご来場者をお迎えして現地開催となりましたが、競技内容や運営方法ともに新たな取組みにチャレンジしました。そういった状況の中で、各社プロジェクトメンバも試行錯誤しながら新しいものをつくりあげ素晴らしい競技会を開催できたことを、ご協力いただいた関係各社様に心から感謝申し上げます。

今後も未来につながる技術・ビジネスシーンを反映した競技会を開催し、通信建設業界のさらなる発展に寄与するよう努めて参ります。